

大学体育授業におけるサッカー規則の認識について

見正 秀基・木谷 織信¹⁾

Understanding of Football Rules in Physical Education of Japanese University

Hidemoto MIMASA Orinobo KITANI

要 約

本研究は大学体育授業においてサッカーを履修している学生を対象にルールテストを実施し、学生のサッカー規則の認識の程度を明らかにするとともに今後のサッカー授業を展開する上での基礎資料を得ることを目的に調査を実施した。

サッカーのルールに対する認識は、経験群において非経験群と比較し高いことが明らかになった。この傾向の違いには、過去のサッカー経験の有無が大きく影響していることが伺えた。したがって、非経験群の学生に対し、ルール認識の必要性とともにルールに対する指導の働きかけが重要であり、さらに現行のサッカー競技規則については、国際サッカー評議会において決定された競技規則の改正に伴ってルールが変更されている。よって、履修する学生に変更されたルールの内容について対応ともに提供する必要があると考える。

キーワード：ルール認識、大学生、サッカー経験、体育授業

1) 追手門学院大学非常勤講師

1. はじめに

サッカーは全世界200の国と地域でプレーされ、競技人口は2億4000万人と世界で人気が高いスポーツのひとつである¹⁾。日本国内においてサッカー人気は高く、競技人口は増加傾向にある²⁾。また、サッカーは学校教育において体育授業の教材として取り扱われ、多くの児童・生徒がサッカーを経験する機会を得ている。大学体育授業においても選択種目としてサッカーを選択する学生は多く、サッカー人気が高いことが伺われる。

体育授業の教材としてサッカーを考えた場合、足でボールを操作するといった種目特性があり、ボールコントロールなどの基本技術の習得の課題は大きい。さらに、ゲームにおいては状況に応じた技術とともに戦術の影響は大きく、規定されたルールの範囲内において技術と戦術が実践されなければならない。したがって、サッカーの授業においてゲームを活発かつ積極的に実践するための基本技術の指導とともにゲームを円滑に展開するためのルールの理解を促す指導が必要になると考えられる。しかしながら、サッカーの授業を履修する学生がどの程度サッカーのルールを理解しているかは明らかではなく、ルールの認識の程度を明らかにすることでルール指導の位置づけを明確にする必要があると考えた。

そこで、本研究は大学体育授業においてサッカーを履修している学生を対象にルールテストを実施し、学生のサッカールールの認識の程度を明らかにするとともに今後のサッカー授業を展開する上での基礎資料を得ることを目的に調査を実施した。

2. 方法

2.1 対象者

本研究の対象者は大阪府下の大学2校に在籍し、一般体育実技（サッカー）を履修している男子学生230名であった。

2.2 調査方法

調査は国際サッカー評議会が制定し、国際サッカー連盟（FIFA）により発行されているサッカー競技規則³⁾に基づき、三村⁴⁾が作成したルールテスト（計100問）を用い、授業間に質問紙を配布し回答させ、その場で回収した。テスト項目は①競技のフィールド、②競技者の用具、③ゴールキックおよびコーナーキック、④得点の方法、⑤フリーキック、⑥競技者の数および試合時間、⑦スローイン、⑧、⑨オフサイド、⑩ファウルと不正行為、⑪主審、⑫ペナルティーキックに関する16項目であった。

2.3 統計処理

分析は中学および高校における課外活動でのサッカー経験の有無により、中学・高校と継続してサッカーを経験している群（経験群 $n = 132$ ）と中学・高校とサッカーの経験がない群（非経験群 $n = 98$ ）の2群に分類し比較した。合計得点とゲームを実施する上でルール認識の差異が大きく影響すると思われる「プレーの開始および再開」「スローイン」「オフサイド」に関する3項目の得点比較を行った。群間における平均値の比較には対応しないt検定およびクロス集計における検定はX²を用い5%をもって有意とした。以上の分析は統計パッケージソフトSPSSを用いた。

3. 結果

3.1. 合計得点について

サッカー規則の認識は過去のサッカー経験が大きく影響していると考えられることから中学・高校とサッカー経験した有無により経験群と非経験群の2群に分類し比較した。図1は経験群と非経験群のルールテストの合計点を示す。経験群 73.7 ± 10.4 点、非経験群 68.2 ± 9.5 点と経験群において有意に高い値を示し ($p < 0.05$)、サッカー経験者においてルール認識が高いことが認められた。この結果は、一般学生とサッカー部員のルール認識を調査した松原ら⁵⁾の結果と同様の傾向であり、当然のことながらルール認識にはサッカー経験の有無が影響することが示された。さらに、詳細を明らかにするためゲームを実施する上でルール認識の差異が大きく影響すると思われる「ゴールキックおよびコーナーキック」「スローイン」「オフサイド」に関する項目について検討を加えた。

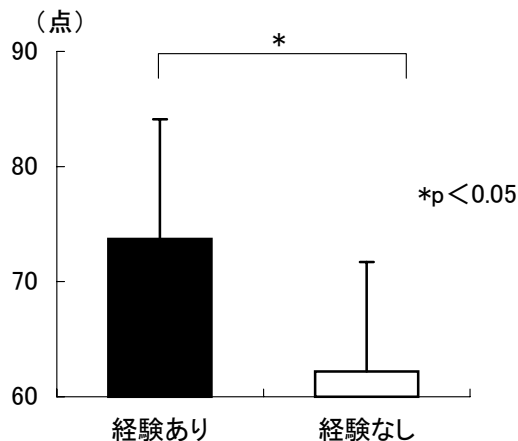


図1 合計得点と経験の有無

3.2. ゴールキックおよびコーナーキックについて

項目の合計得点の正答率を経験群, 非経験群の間で比較を行った。その結果, 経験群 95.1 ± 17.6 点, 非経験群 94.1 ± 10.7 点との間では有意な差は認められなかった。そして, 項目別に経験群と非経験群の間で比較し正解の比率を示す(図2-1参照)。その結果, 項目1の問いに対し, 経験群93.2%, 非経験群78.6%の解答の比率に有意な差がみられ ($p < 0.05$), 経験群において正解者の割合が高いことが認められ, 「ゴールキック」の再開におけるルール認識が高いことが示された。しかしながら, 他の項目では解答の比率に有意な差は認められず, 正解者の割合は9割以上に達し, 両群において「ゴールキック」「コーナーキック」に対する認識には, 高い傾向であることが示された。

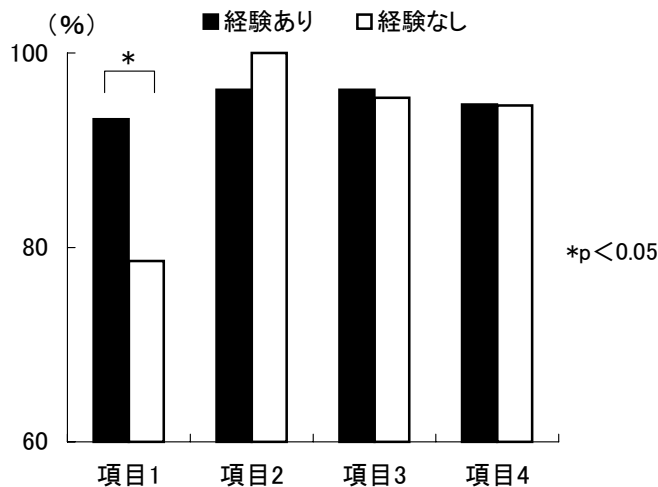


図2-1 ゴールキックおよびコーナーキックについて

次に, 項目の合計得点の正答率を経験群, 非経験群の間で比較を行った。その結果, 経験群 90.3 ± 18.7 点と非経験群 84.7 ± 17.5 点と経験群において有意に高い値がみられ ($p < 0.05$), 経験群において「ゴールキック」および「コーナーキック」のルール認識が高いことが認められた。さらに, 項目別に経験群と非経験群の間で比較し正解の比率を示す(図2-2参照)。その結果, すべての項目において経験群の正解の比率が高い傾向にあることがみられた。特に項目2, 3では, 経験群, 非経験群の正解の比率に有意な差がみられ ($p < 0.05$), 非経験群において正解者の割合が低いことが認められた。この2項目の経験群, 非経験群の正解の比率は, それぞれ83.3%・58.2%, 67.4%・49.0%であり, 非経験群の正解者の割合が経験群の7割程度の認識であることが示された。また項目4では, 経験群, 非経験群の正解の比率は, それぞれ52.3%, 39.8%であり, 前途の項目のルール認識に比べ低い傾向にあることが示された。

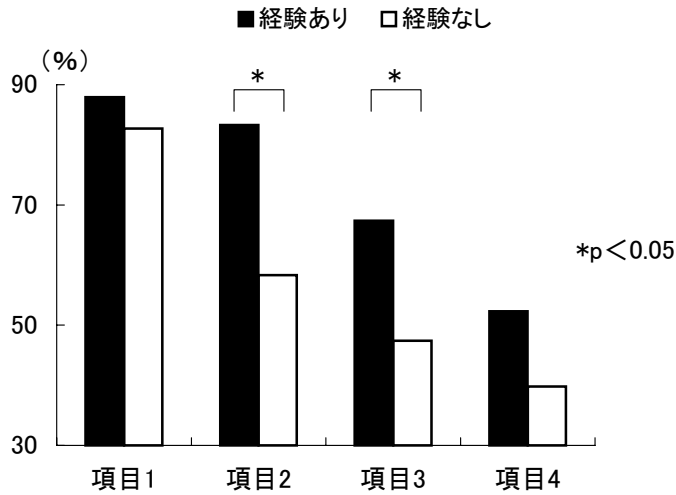


図2-2 ゴールキックおよびコーナーキックについて

3.3. スローインについて

項目の合計得点を経験群、非経験群の間で比較を行った。その結果、経験群70.5±22.5点と非経験群59.6±23.2点と経験群において有意に高い値がみられ ($p<0.05$)、経験群において「スローイン」のルール認識が高いことが認められた。さらに、項目別に経験群と非経験群の間で比較し正解の比率を示す (図3-1参照)。項目1、項目2および項目3の解答の比率に有意な差がみら

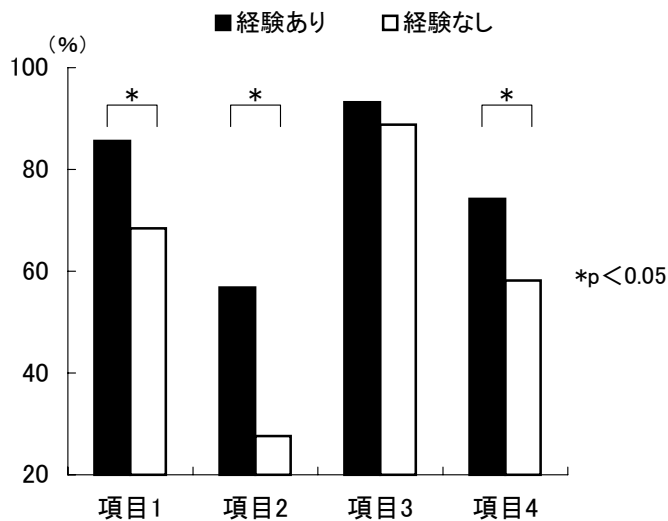


図3-1 スローインについて

れ ($p < 0.05$), 非経験群においてスローインの認識が低いことが認められた。これら3項目における経験群, 非経験群の正解の比率では, それぞれ85.6%・68.4%, 56.8%・27.6%, 74.2%・58.2%であることが示された。しかし, 項目4では, 経験群, 非経験群の正解率は93.2%・88.8%であり, 正解者の割合が前途の項目より高い傾向にあることが示された。

次に, 項目の合計得点を経験群, 非経験群の間で比較を行った。その結果, 経験群79.9±15.4点, 非経験群74.2±13.4点と経験群において有意に高い値がみられ ($p < 0.05$), 経験群においてスローインの認識が高いことが認められた。さらに項目別に経験群, 非経験群の間で比較し正解の比率を示す (図3-2参照)。項目1, 項目5および項目8では, 両群とも正解の比率は低く, それぞれ42.4%・28.6%, 36.4%・27.6%, 37.1%・27.6%であることが示された。なかでも項目1の解答の比率に有意な差がみられ ($p < 0.05$), 非経験群においてスローインのルール認識が低いことが明らかになった。しかしながら, 両群において項目2, 項目3, 項目4と項目6および項目7の項目では, 正解の比率は90%以上であり, これらの項目についてはルール認識は高い傾向にあることが示された。

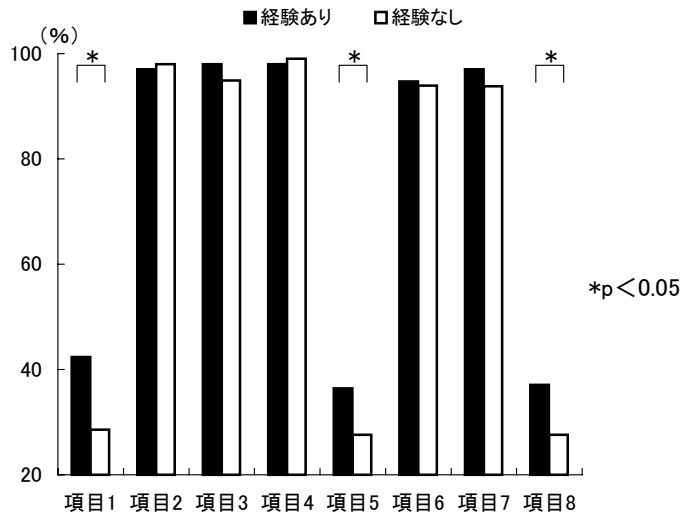


図3-2 スローインについて

3.4. オフサイドについて

項目の合計得点を経験群, 非経験群の間で比較を行った。その結果, 経験群76.8±23.3点, 非経験群76.1±19.2点の間では有意な差は認められなかった。また, 項目別に経験群, 非経験群の間で比較し解答の比率を示す (図4-1参照)。その結果, 有意な差は認められなかった。項目2と項目3, 項目5および項目6について正解者の割合は8割であり, これらの項目の認識は高い傾

向にあった。なかでも3項目において、非経験群は経験群より正解の割合が高い傾向にあった。しかしながら、項目1および項目4の解答の比率は、73.5%・66.5%、57.6%・53.1%であり、前述の項目より正解の割合が低い傾向にあった。

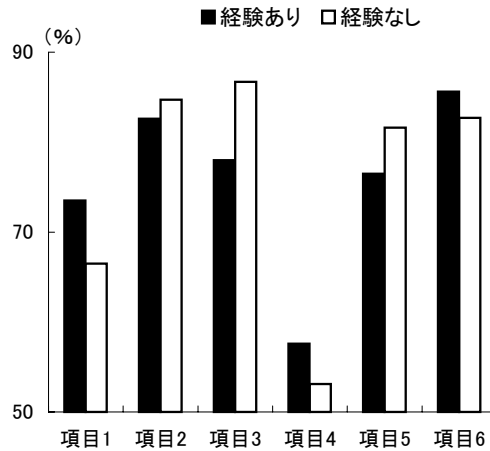


図4-1 オフサイドについて

次に、項目の合計得点を経験群、非経験群の間で比較を行った。その結果、経験群 89.2 ± 22.4 点、非経験群 82.7 ± 25.9 点の間で経験群において有意な高い値がみられ ($p < 0.05$)、経験群においてオフサイドのルール認識が高いことが認められた。さらに項目別に、経験群、非経験群の間で比較し解答の比率を示す(図4-2参照)。項目1において、経験群90.2%、非経験群76.5%の間で経験群において有意に高い値がみられ ($P < 0.05$)、経験群における認識が高いことが認められた。ま

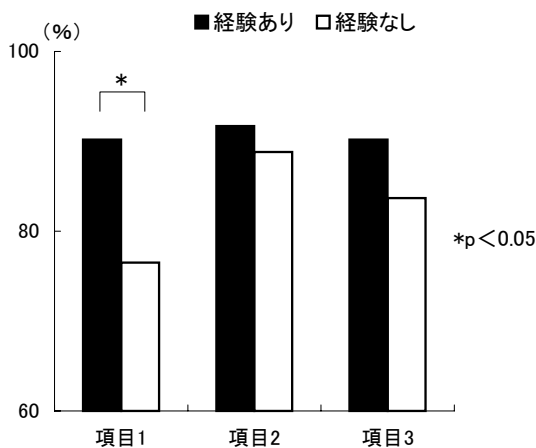


図4-2 オフサイドについて

た項目2および項目3では、経験群、非経験群の解答の比率は、91.7%・88.8%、90.2%・83.7%であった。

4. 考察

4.1 ゴールキックおよびコーナーキックについて

「ゴールキックおよびコーナーキック」に関する問いである。経験群と非経験群の回答の比率に差が認められず、両群において「ゴールキックおよびコーナーキック」の再開場所に対する認識が高いことが伺えた。さらに、項目別で見ると、特に項目1について正解の比率に差がみられ、非経験群においてゴールキックの再開場所の認識が低いことが明らかとなった。このことは、非経験群は「ゴールキック」をゴールエリアの任意の場所から再開することができる認識および理解が得られていないことによって、正解率に影響していることが伺えた。

次に、「ゴールキックおよびコーナーキック」に関する問いである。経験群と非経験群の回答の比率に相違がみられ、非経験群において「ゴールキック」から再開に関する認識が得られていないことが伺えた。このことは、ゴールキックから再開時には“ペナルティエリアの外に直接蹴りだされたときにボールがインプレーとなる”および“ボールがインプレーになるまで相手競技者はペナルティエリアの外にいる”という認識が得られていないことによって、正解率に大きく影響していると考えられる。そして、これらの項目では、特に非経験群において“ゴールエリア”の回答が多く、区分された“ゴールエリア”と“ペナルティエリア”という名称および異なるエリアが持つ役割などを明確に理解されていないことが伺えた。その一要因として、過去の体育授業でグラウンド内に区分された“ゴールエリア”と“ペナルティエリア”などのラインが描かれていない状況で試合を行ったためではないかと思われる。また注目したい項目は、両群において「コーナーキック」を行う場所の“名称”認識が低い傾向にあることが伺えた。このことは、両群において主審が指す場所の名称が変更⁶⁾になったことが影響しているものと考えられる。すなわち、非経験群において「ゴールキックおよびコーナーキック」から再開する時のルールに対し、正答率が低く認識に影響していることが伺えた。

4.2 スローインについて

スローインに対する“ボールの投げ方”に関する問いである。経験群と非経験群の回答の比率に相違がみられ、非経験群においてファウルスローインに対する認識が低いことが伺えた。そして項目別で見ると、3項目について正解の比率に相違がみられ、非経験群においてスローインにおける認識が低いことが明らかになった。これらの回答では、項目1『横を向いて投げている』、項目2『腰から上体が曲がっている』および項目4『前で投げている』などの記述が多く見られた。すなわち、非経験群においてスローインの際“ボールが頭の後方から頭上を通過する際にボール

を投げ入れる”という認識の欠如が影響していることが伺えた。一方、両群とも正解の割合が高い傾向を示した項目は、回答として『スロー時に片足を浮かしている』という記述内容であり、ファウルスローという認識および理解をしているものと思われる。したがって、スローインの際に起こるファウルスローとして代表的なものであり、“足を挙げる”投げ方は、一般に広く理解および認識が得られていることが伺えた。すなわち、「スローイン」のルールに対し、特に非経験群において記述式の回答によって正答率が低くことが認識に影響していることが伺えた。

次は、スローインに“ラインと足の位置”に関する問いである。経験群と非経験群の回答の比率に相違がみられ、非経験群においてスローインに対する認識が低いことが伺えた。さらに、項目別で見ると、両群において項目1「片足がタッチライン」と項目5「両足がタッチライン」および項目8「ラインから2m以上離れた」などの問いに対し、“ファウルスロー”ではないという認識傾向にあることが伺えた。このことから、ボールを投げ入れる際、片足あるいは両足がラインにかかった場合をファウルとして認識されていると思われる。すなわち、足がタッチラインに踏んでスローインすることによって、ファウルスローと誤った認識が影響を及ぼしていると考えられる。しかしながら、残りの項目においては、両群において正解者の割合が9割以上の者が認識していることが伺えた。このことは、足の位置がタッチラインを境にし“タッチライン内の地面”に踏み越してスローインした場合、ファウルという認識や理解が得られていると考えられる。すなわち、非経験群において「スローイン」のルールに対し、正答率が低く認識に影響していることが伺えた。

4.3 オフサイドについて

図を見てオフサイドの有無に対する問いである。経験群と非経験群の間には、回答の比率には差が認められず、オフサイドに対する認識は、4人に3人の学生が認識している傾向にあることが伺えた。また項目別で見ても、正解の比率には差が見られなかった。図で描かれた点線は“オフサイドライン”を示し、守備側の後方から2人目に位置する競技者を点線で表す。3項目について非経験群の正解率が高い傾向にあることが見られた。これらの問いの図から“オフサイドライン”より前方にいる競技者を守備側の競技者と認識する可能性は高い。すなわち、オフサイドラインよりゴール近くに位置する競技者を守備チームの一員であるかのように解釈したことによって、正解率に影響を及ぼしたと考えられる。一方で、項目4では“シュートをゴールキーパーがはじいた、ボールをオフサイドポジションに位置した競技者にわたった時、オフサイドポジションに位置する競技者がプレーした場合にオフサイドとなる。したがって、項目3と項目4に対する違いは、「シュート」までは同じであるが、その後、その位置にいることによって利益をえることとなり、オフサイドの認識に影響を与えていることが伺えた。すなわち、非経験群において「オフサイド」のルールに対し、認識が低い傾向にあることが伺えた。

次に、副審が旗を挙げた高さによって、オフサイドの場所を選択する問いである。経験群と非

経験群の回答の比率に相違が見られ、非経験群においてオフサイドに対する認識が低いことが伺えた。さらに、項目別で見ると、特に項目1について正解の比率に差が見られ、非経験群において“遠い場所”についての認識が低いことが明らかになった。項目①旗を斜め上にあげている、項目②旗を地面と平行にしている、項目③旗を斜め下に下げているなど、副審がオフサイドの地点（位置）を指している。3項目の回答は、それぞれ①「A」 ②「E」 ③「I」であり、これらの正解率に若干の違いがあるものの、約90%を占めており、認識および理解が得られているとみることができる。しかしながら、非経験群において項目1の回答は、項目3の回答が選択されており、回答に対する迷いととも曖昧さが影響しているのではないかと考えられる。概ねオフサイドに関するルールの理解および認識については高い傾向にあると言えよう。すなわち、非経験群において「オフサイド」のルールに対し、正答率が低いことが認識に影響していることが伺えた。

まとめ

以下のような結果を得た。

1. ゴールキックおよびコーナーキックの認識について
特にゴールキックは「ゴールエリア」内のすべての地点から再開およびボールが「ペナルティエリア」の外に出ることに対する認識を高める教育が必要である。
2. スローインの認識について
“ボールを投げ入れる”スローインには、「ボールの投げ方」と「タッチラインと足の位置」について、理解および認識を高めるためにスローインの正しいやり方を十分な説明が必要である。
3. オフサイドの認識について
概ね学生の4人中3人がオフサイドに関するルールを理解および認識していると思われる。しかしながら、サッカーのルールで一番複雑なのがオフサイドであり、オフサイドに対するルールの認識を高めるとともに働きかけが重要であると考えられる。

ルールに対し、どの程度認識しているのか明らかにされたのではないかと考える。今後は、ルールに対する指導を促すためにも、他のルール認識について詳細に検討していきたいと考える。

参考文献

- 1) FIFA 公式サイト. <http://www.fifa.com/>
- 2) 日本サッカー協会ホームページ. <http://www.jfa.or.jp>
- 3) (財) サッカー協会. サッカー競技規則 2007/2008
- 4) 三村 高之 (2006. 3) 最新サッカールールブック, 1～105, 2006.3
- 5) 松原 裕・田代力也・松本光弘・山中邦夫 (1993) 大学生のサッカー規則の知識に関する研究, 独協大

見正・木谷：大学体育授業におけるサッカー規則の認識について

学諸学研究：28（1）pp119～127.

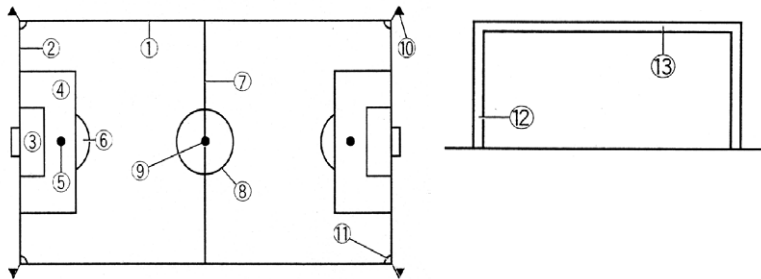
6）（財）サッカー協会．サッカー競技規則 2003/2004

7）浅見 俊雄（1998）ワールドカップ フランス 1998 と日本サッカー，体育の科学，46（9）：pp736～739.

資料 1

1. 図の1～13の名称をA～Vの語群から選びましょう

(A) センターライン (B) ゴールアーク (C) センターマーク (D) ゴールライン (E) ペナルティエリア (F) タッチライン (G) キックオフマーク (H) コーナーサークル (I) クロスバー (J) ハーフウェイライン (K) エンドライン (L) ペナルティキックマーク (M) コーナーアーク (N) サイドライン (O) ペナルティアーク (P) ゴールバー (Q) センターエリア (R) センターライン (S) センターサークル (T) コーナーフラッグポスト (U) ハーフサークル (V) ゴールポスト (W) ゴールエリア (X) オフサイドライン



- 1 () 2 () 3 () 4 () 5 ()
 6 () 7 () 8 () 9 () 10 ()
 11 () 12 () 13 ()

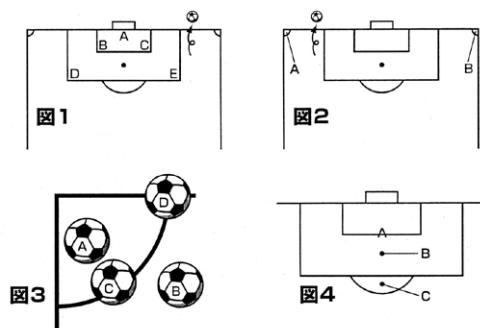
2. 次の文章が正しければ○、間違っていれば×をつけましょう

- ①ユニフォームは審判員や相手チームとう色でなければならない ()
 ②ゴールキーパーとフィールドプレイヤーのユニフォームは、同じ色でもよい ()
 ③アンダータイツは、ショートパンツと違う色でもよい ()
 ④フィールドプレイヤーも、防寒のためにグローブをつけられる ()
 ⑤フィールドプレイヤーも、防寒のためにひざ下までのロングタイツをつけられる ()

3. 下の図を見ながら質問に答えましょう

- ①ゴールラインの右サイドからボールが出た場合、ゴールキックはどこから行なうか ()
 ②ゴールラインの左サイドからボールが出た場合、ゴールキックはどこから行なうか ()
 ③コーナーキックの時、正しいボールの位置はどれか ()

④ペナルティキックは、どこから行なうか ()

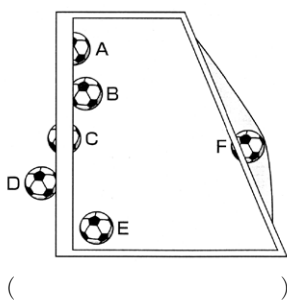


4. 次の文章 () にあてはまる言葉を語群から選び、A~Hで答えましょう

- ① ボールがタッチラインから出ると、主審は手で () を示す
- ② ゴールキックの時、相手チームの選手は、() の外にいないなければならない
- ③ ゴールキックは、() の外に出なければインプレーにならない
- ④ コーナーキックの時、主審は () を示す

- a ゴール b ボールを出したチームが攻める c ゴールエリア d コーナーサークル
- e スローインをするチームが攻める方向 f ペナルティアーク g コーナーアーク
- h ペナルティエリア

5. ゴールを横から見た図です。得点となるボールは、A~Fのどれでしょうか



6. つぎのケースで、得点(失点)となるものに○、得点(失点)とならないものに×をつけましょう (文中の『直接』とは、誰にもさわれずという意味です)

- ① スローインが直接相手ゴールに入った ()
- ② スローインが直接自ゴールに入った ()

- ③ キックオフが直接相手ゴールに入った ()
- ④ 間接フリーキックが直接相手ゴールに入った ()
- ⑤ 間接フリーキックが、ゴールキーパーの指にあたって相手ゴールに入った ()
- ⑥ 間接フリーキックが、主審に当たって相手ゴールに入った ()
- ⑦ 直接フリーキックが直接自ゴールに入った ()
- ⑧ ゴールキーパーのパントキックが、直接自ゴールに入った ()
- ⑨ コーナーキックが直接自ゴールに入った ()
- ⑩ ゴールキックが直接自ゴールに入った ()

7. 次の文章の () の中に言葉か数字を入れましょう

- ・試合前に主審がコインのトスを行い、勝ったチームが () を選び、負けたチームの () になる
- ・ケガ防止のために、選手はストッキングの中に () を着けることが義務づけられている
- ・1チーム11位なくても、() 人以上いれば試合は成立する
- ・一般的な成人の公式試合は、前後半合わせて () 分で行なう

8. 下の1～4はいずれもファウルスローです。なぜファウルスローなのかを答えましょう

()



()



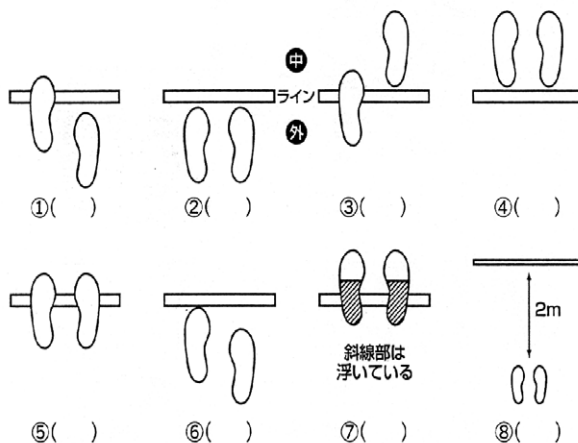
()



()



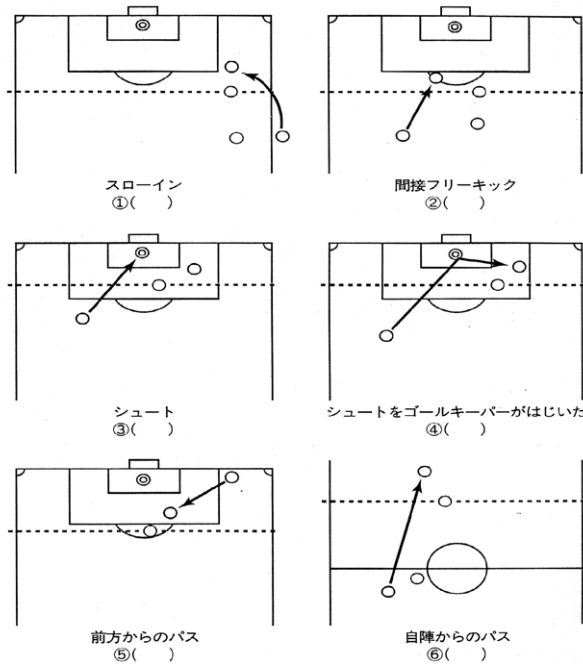
9. スローインの足の位置で、正しいものに○、ファウルスローに×をつけましょう



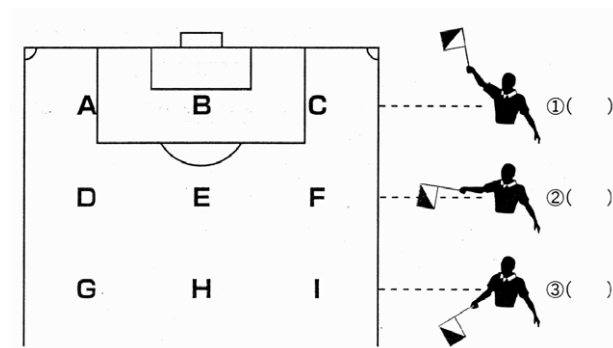
10. 次の文章の () の中に言葉か数字を入れましょう

- ・サッカーの審判員は、() 1名、() 2名の計3名だが、第4の審判員がいる場合もある
- ・キックオフの時は、両チームの選手とも、ボールがけられるまで () に入れない。また、キックオフを行わないチームは、() のも入れない
- ・反則が起こると、() はホイッスルを吹いて試合を止め、フリーキックを行なうチームが () 方向を示す
- ・ゴールキーパーが手でボールをプレーできるのは、自陣 () 内だけである
- ・ゴールキーパーは、() 秒までボールを保持してられる
- ・フリーキックの時、相手チームの選手はボールから () メートル以上はなれなければならない
- ・自陣ペナルティエリアの中で、直接フリーキックになる反則をすると、相手チームの() になる

11. 下の1～6の図を見て、オフサイドには×、オフサイドでないものに○をつけましょう



12. オフサイドがありました。副審1～3の位置とフラッグを見て、フリーキックの場所をA～Iから選びましょう



13. つぎの反則のうち、直接フリーキックになるものに×、間接フリーキックになるものに△をつけましょう

① 相手のボールを奪おうとタックルし、ボールにさわる前に相手の体にふれた

(ファールタックル)

- ② 相手に飛びかかった (ジャンピングアット)
- ③ 相手の顔の近くまで足を上げた (デンジャラスプレー)
- ④ 相手の足を引っ掛けて転ばせた (トリッピング)
- ⑤ ボールが近くにないののに、体を接触させないで相手の進路を妨害した (オブストラクション)
- ⑥ 相手にツバを吐きかけた (スピitting)
- ⑦ ゴールキーパーが味方のスローインをキャッチした
- ⑧ ボールによろうとした相手を手で押さえつけた (ホールディング)

14. 次の文章の () に当てはまる言葉を語群から選び、A～Mで答えましょう

- ① 警告処分を () 受けると退場処分になる
 - ② 退場処分を下すとき、主審は () を示す
 - ③ 選手交代は () 付近で行なう
 - ④ ペナルティキック方式は、まず () ずつがキックする
 - ⑤ リーグ戦で勝ち点と同じ場合、一般的には () の多いチームを上位にする
- A 6人 B イエローカード C ゴールライン D 3回
E 5人 F レッドカード G ベンチ H 1回 I 2回
J 総得点 K ハーフウェイライン L 得失点差
M 勝利数

15. 次の文章が説明している言葉を答えましょう

- ① 反則があったが、フリーキックよりもそのままプレーを続けたほうが反則を受けたチームに有利と主審が判断し、「プレーオン」を続けさせること ()
- ② 延長戦の方式のひとつで、どちらか一方のチームが得点を入れた時点で試合が終了し、得点を入れたチームの勝利になるもの ()
- ③ 反則などがないのに、主審が試合を止めた場面の再開法。主審が両チームの選手の間ボールを落とし、ワンバウンドしてから両者がボールを奪い合うもの ()
- ④ 反則されていないのに、フリーキックを得ようと転ぶシミュレーションや、味方の方を利用してジャンプするなど、フェアプレー精神に反し、警告処分を受ける行為 ()

16. 次の文章が正しいければ○、間違っていれば×をつけましょう

- ① ペナルティキックをける前に、守備側の選手がペナルティエリア内に入ると、キックが成功した場合、やり直しになる（ ）
- ② ペナルティキックをける前に、攻撃側の選手がペナルティエリア内に入ると、キックが成功した場合、やり直しになる（ ）
- ③ ペナルティキックをける前に、両チームの選手がペナルティエリア内に入るとキックが成功しても失敗しても、やり直しになる（ ）
- ④ ペナルティキックのとき、ゴールキーパーはゴールラインより後方（ゴールの中）にたたなければならない（ ）
- ⑤ ベンチにいる交代要員も警告処分を受けることがある（ ）
- ⑥ ケガの手当てのためピッチから出る時は、主審の承認をえなければならない（ ）
- ⑦ 手当てを終えてピッチに戻る時は、副審の承認をえなければならない（ ）
- ⑧ 水分補給は、定められた場所に置いた水を、試合中いつでものむことができる（ ）
- ⑨ ペナルティキック方式は、コインのトスで勝ったチームが、先にけるか後にけるかを選ぶ（ ）
- ⑩ ペナルティキック方式のとき、キックの順番をまっているフィールドプレイヤーは、キックを行なうゴールと反対の障地にいななければならない（ ）